

先端研究拠点事業（拠点形成型）の事後評価結果

領域・分野	総合領域(工学) 情報学(メディア情報学・データベース)
拠点機関名	北海道大学
研究交流課題名	知識メディア技術を用いた学術情報の知識の 高度な連携・活用・流通に関する拠点形成
採用期間	平成18年4月1日～平成20年3月31日
日本側コーディネーター(職・氏名)	大学院情報科学研究科 教授 田中譲
交流相手国 (国・拠点機関・コーディネーター)	フランス：パリ11大学 (IT研究室・教授・Syratos Nicolas) ドイツ：ライプチヒ応用科学大学 (ライプチヒIT研究機関・ 代表執行役・Jantke Klaus-Peter) 欧州連合(EU)：欧州情報処理数学研究 コンソーシアム(ERCIM) (ERCIM事務総局・局長代理・ Le Dantec Bruno) カナダ：カルガリ大学 (Department of Geography・教授・ Waters Nigel)

総合的評価

評 価
<input type="checkbox"/> 当初設定された目標は十分達成された。 <input checked="" type="checkbox"/> 当初設定された目標は概ね達成された。 <input type="checkbox"/> 当初設定された目標はある程度達成された。 <input type="checkbox"/> 当初設定された目標はほとんど達成されなかった。
コメント
<p>海外拠点（フランス拠点、ドイツ拠点、EU 拠点、カナダ拠点）との数多くの交流、特に若手研究者の派遣（博士課程学生 4 名、ポスドク 3 名、助教授 5 名）やワークショップの開催等については、概ね目標が達成されたと判断する。特に、セミナーやワークショップの開催と関連した研究業績（研究期間内で 89 件）は、その証であると言える。</p> <p>その一方、共同研究を開始したという初期段階のテーマも多いように見受けられる。特に、成果公表の状況を見ると、論文等総数 89 件のうち、相手国参加研究者との共著が 4 件にとどまっており、主な文献中には記載がない。</p> <p>また、参加研究者に関して、相手国側参加者に生命科学関連分野の研究者が少ないように見受けられ、「情報科学と生命科学の分野を横断する密な連携拠点の形成」の目標達成に向け、課題と感じられる。</p> <p>しかしながら、本事業の趣旨に即して知識メディア科学の国際ワークショップを立ち上げ、今後の定期的な開催を計画している点や、本事業を通してパリ 11 大学においてポスドクの採用を得るなど、国際的な若手研究者の育成に成功している点、EU のプロジェクトに参画することが決まっている点から、今後の持続的な国際学術交流の展開が期待できる。</p>

1. これまでの交流を通じての成果

当該研究交流課題を実施したことによる学術的な成果、持続的な協力関係の構築状況、若手研究者の養成への貢献度等、研究交流目標の達成度への評価。

評 価
<input type="checkbox"/> 十分成果があった。 <input checked="" type="checkbox"/> 概ね成果があった。 <input type="checkbox"/> ある程度成果があった。 <input type="checkbox"/> ほとんど成果が見られなかった。
コメント
<p>国際会議やワークショップの開催、研究者派遣などを着実に実施している点は評価できる。特に、本事業の趣旨に即して知識メディア科学の国際ワークショップを立ち上げ、今後も定期的な開催を計画している点は評価できる。並行して相手国主催のワークショップなども行われており、対等な国際協力関係を構築できていることがうかがわれる。</p> <p>国際的学術情報の収集整備においては、EUの統合プロジェクト ACGT に参画しており、全体会議を始めワークパッケージ会議等に多くの人材を派遣し、多くの情報を収集できたものと判断する。</p> <p>また、国際会議の予稿集が Springer 等の海外出版社から出版されることになっており、学術的な成果として評価できる。</p> <p>若手研究人材養成については、研究期間内に博士課程学生4名、ポスドク3名、助教授5名を、交流相手国拠点に派遣しており、さらには、海外協力機関のPDへの採用があるなど、概ね良好な成果があったと判断する。</p> <p>一方、参加研究者に関して、特に相手国側参加が大部分情報学分野の研究者であり、生命科学関連分野の研究者が少ないように見受けられる。</p>

2. 事業の実施状況

事業の実施体制、共同研究やセミナーの実施状況、研究者の交流状況、相手国機関と協力状況、経費の執行状況等の実施状況についての評価。

評 価
<input type="checkbox"/> 非常に効果的に実施された。 <input checked="" type="checkbox"/> 概ね効果的に実施された。 <input type="checkbox"/> ある程度効果的に実施された。 <input type="checkbox"/> 効果的に実施されたとは言えない。
コメント
<p>事業の実施体制については、日本側拠点、フランス拠点、ドイツ拠点、EU拠点、カナダ拠点が概ね適切に連携体制を築いていると判断され、また、これら交流相手国との機関とは新しいプロジェクトの開始の記述もあり、良好な協力体制が築かれたものと判断する。</p> <p>共同研究課題については、例えばドイツ拠点における癌シミュレーション・ソフトウェアの可視化や知識メディアを活用した制御インタフェースなど具体的な課題が設定されている点が評価される。</p> <p>しかし、共同研究を開始したという段階のものも多いように見受けられる。特に、成果公表の状況を見ると、論文等総数 89 件のうち、相手国参加研究者との共著が 4 件にとどまっており、主な文献中には記載がない。今後の国際共同研究成果の進展に期待したい。</p> <p>セミナーについては、本事業の内容にマッチした国際ワークショップを実施しており、適切に実施されている。</p> <p>研究者交流については、特に、2年目には若手研究者を中心に派遣を行っており、それが海外機関でのPDの採用などにもつながっていると思われる。</p> <p>論文の数は2年間で31件であり、十分な数と考える。</p> <p>経費執行については、本事業の目的に照らして合致する費目と執行額であり、妥当なもの判断する。</p>

3. 次年度以降の展望

次年度以降の研究協力体制の維持・発展に向けた展望における計画の適切さ、具体性、実現可能性への評価。

評 価
<input type="checkbox"/> 大いに期待できる。 <input checked="" type="checkbox"/> 概ね期待できる。 <input type="checkbox"/> 一層の努力が必要である。 <input type="checkbox"/> 期待できない。
コメント
<p>2年間の積極的な取組みによって、国際連携拠点にむけた持続的な協力関係の一定の基盤は構築できたものと推察される。</p> <p>とくに、ERCIM の ACGT (Advancing Clinico-Genomic Clinical Trials on Cancer) プログラム (2006-2010) に参画している、若手研究者が海外研究協力機関のPDとして採択されている、など、今後の学术交流の発展に関して継続的な活動が大いに期待できる。</p> <p>しかしながら、7ページの「次年度以降の展望」では、カナダ拠点の研究者の移籍による新たな米国大学との連携についての可能性がわずかに述べられているが、本事業の成果を踏まえたより発展に向けた展望についてのより詳細な記述、特に、計画の適切さや課題の具体性、事業の実現可能性について、具体的な記述が見られず、判断に窮した。</p>